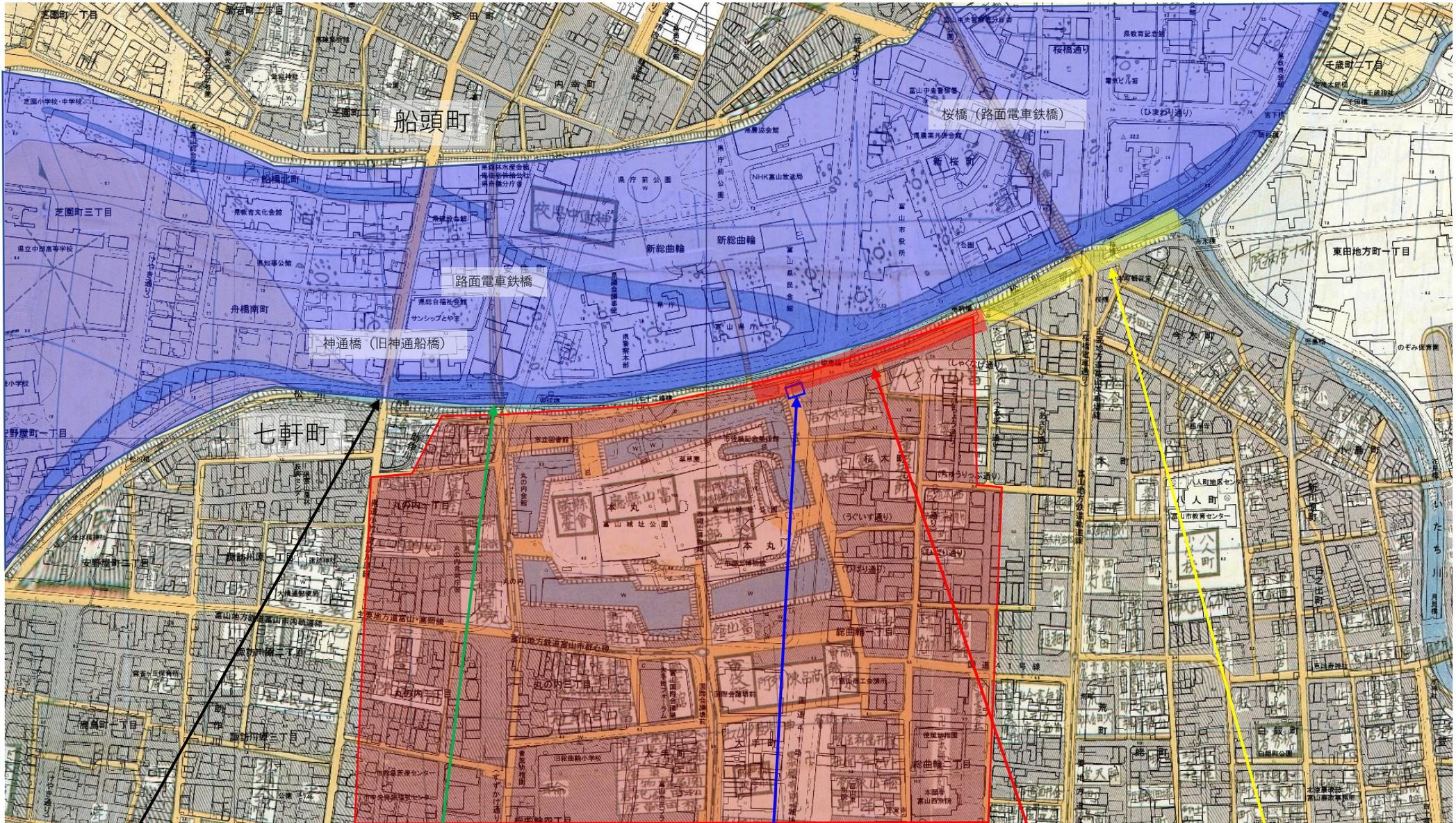


神通川と松川今昔歩き（大正2年以降地図と現在住宅地図を重ね合わせたもの）



神通橋（旧船橋）

路面電車鉄橋

現在地 松川茶屋

千歳ヶ浜

木町の浜

- = 旧神通川河川区域
- = 旧富山城区域

ブラ富山アプリ、富山探検ガイドマップ研究資料より

神通川と松川今昔歩き（現在の松川茶屋付近から上流〈西側〉を見た明治期の神通川 複数をつないだパノラマ）



上段左：明治後期の富山城石垣と北側壕
右に神通河畔「千歳ヶ浜」
右奥に神通橋（神通船橋跡に架橋）を望む

上段中左・中右・右：明治後期の神通河畔「千歳ヶ浜」（通称クルミジタ、胡桃下）
神通川右岸堤より、神通橋、呉羽山を望む
中右の大きな船は帆柱を倒した岩瀬通いの大船とササブネ
右は岩瀬通いの大船と練習中の富山中学短艇



上段左とほぼ同じ位置から写す：現在
左が富山城石垣と佐藤記念美術館
中央が北側壕跡、奥に濠跡の池に架かる景雲橋、
右に松川と県庁



上段中右、中左とほぼ同じ位置から写す：現在
左に松川茶屋、中央が松川右岸堤と松川、
右に県庁



上段右とほぼ同じ位置から写す：現在
左に富山城石垣と佐藤記念美術館、
中央が松川右岸堤と松川 右に県庁

神通川と松川今昔歩き（現在の松川遊覧船のりばから上流〈西側〉を望む、明治期～現在の変遷）



明治後期の神通河畔「千歳ヶ浜」（通称、胡桃下）
神通川右岸堤より神通橋、呉羽山を望む

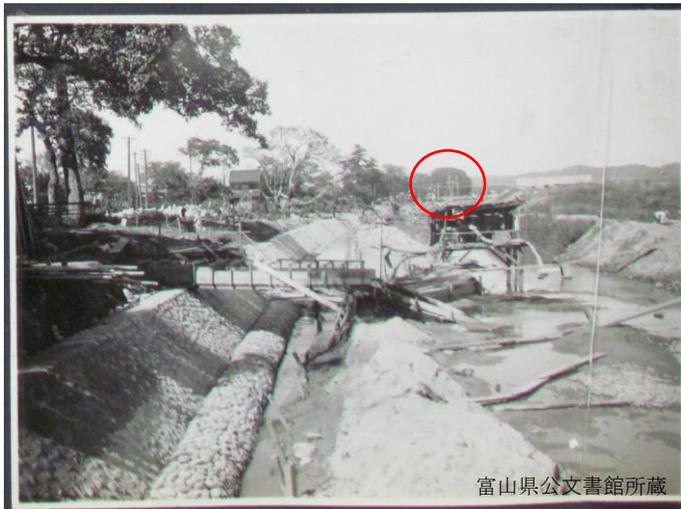


昭和5年 埋立途中の廃川地
呉羽山方向を望む
（廃川は大正10年の旧河道締切り以後）



昭和8年 松川原形と廃川地
呉羽山を望む

○が現在の舟橋右岸上流（七軒町）付近



昭和8年 改修中の松川
松川右岸堤（旧塩倉橋上流付近）より安住橋、
呉羽山を望む



昭和9年 改修後の松川
松川右岸堤（旧塩倉橋上流付近）より安住橋、
呉羽山方向を望む



現在の松川遊覧船のりば付近
左に松川茶屋、中央が松川右岸堤と松川、
右に県庁

神通川と松川今昔歩き（現在の松川茶屋公衆トイレ辺りから上流〈西側〉を見た、大正期の神通川遠望）



神通川むかし歩き 江尻眞生堂発行絵葉書
行發堂生眞尻江 景雪岸沿川通神（山富）

上段左：大正初期の富山城石垣と北側濠
右に神通河畔「千歳ヶ浜」、右奥に路面電車鉄橋（現、安住橋）と神通橋、呉羽山を望む



神通川むかし歩き 絵はがきより
神通川と袖浦橋遠望（絵はがき）

上段右：大正初期 神通河畔「千歳ヶ浜」の上流より
神通川と路面電車鉄橋（現、安住橋）と神通橋、呉羽山を望む
馳越線の方が流量が多くなり、本川では水量が著しく減少している



上段左とほぼ同じ位置から写す：現在
左が富山城石垣と佐藤記念美術館
中央が北側濠跡、奥に濠跡の池に架かる景雲橋、右に松川と県庁



上段右とほぼ同じ位置から写す：現在
左に富山城石垣と佐藤記念美術館、中央が松川右岸堤と松川
右に県庁

神通川と松川今昔歩き（現在の松川茶屋辺りから上流〈西側〉を見た、昭和初期の松川遠望）



富山県公文書館所蔵

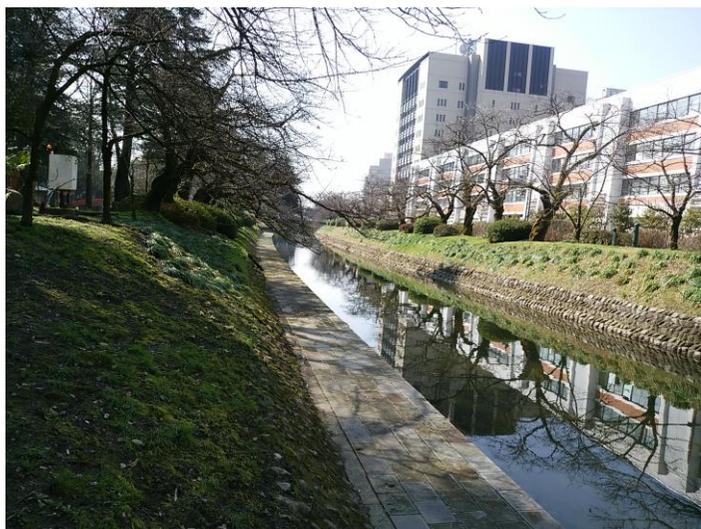
上段左：昭和9年 改修後の松川
松川右岸堤（旧塩倉橋上流付近）より安住橋、呉羽山を望む



富山県公文書館所蔵

上段右：昭和9年 架橋中の旧塩倉橋
松川右岸堤より安住橋、呉羽山を望む

○が現在の舟橋右岸上流（七軒町）付近



上段左とほぼ同じ位置から写す：現在
松川右岸堤（旧塩倉橋付近）より安住橋方向を望む



上段右とほぼ同じ位置から写す：現在
中央兩岸コンクリート親水護岸が旧塩倉橋橋台
左に松川茶屋と松川遊覧船のりば

神通川と松川今昔歩き（松川の上流区域 七軒町付近の変遷 その1）



上段左：大正10年 神通橋上流 廃川地を望む



上段中：昭和8年 松川原形 舟橋上流左岸より安野屋小学校、神通中学を望む



上段右：昭和9年 改修後の松川 舟橋上流左岸より安野屋小学校、神通中学を望む

上写真のケヤキ並木が前ページ○の樹木



上段左とほぼ同じ位置から写す：現在 舟橋上流 左に七軒町 右に舟橋南町



上段中、上段右とほぼ同じ位置から写す：現在 左に七軒町 右に舟橋南町 右奥に高志の国文学館

神通川と松川今昔歩き（松川の上流区域 七軒町付近の変遷 その2）



上段左：昭和8年 松川原形
舟橋上流 左岸より松川橋を望む（通称ケヤキジタ・櫛下）



上段右：昭和9年 改修後の松川
舟橋上流 左岸より松川橋を望む
川仕事（漁、土石採集、舟運）の家々の持ち舟、ササブネ多数



上段左、上段右とほぼ同じ位置から写す：現在
左に七軒町 右に舟橋南町 右奥に高志の国文学館

神通川と松川今昔歩き（松川の上流区域 舟橋付近の変遷）



富山県公文書館所蔵



左とほぼ同じ位置から写す：現在
左が丸の内1丁目 鱒寿し店「前留」
奥に舟橋と舟橋手前左から助作川

左：昭和9年 改修後の松川
安住橋上流から舟橋を望む
（橋詰に神通船橋の常夜燈 道路を挟んで1対、計2つ置いてある）
※左岸側（橋北側）が埋立中のため、右岸側に2つまとめて置いていたとも推測される
舟橋手前の左から助作川が流れ入る 雁木、係船柱があり船着場として整備されている



二つ並んで建つ常夜燈（戦前の撮影：時期不詳・新聞記事切り抜き）
左に橋の欄干が見えるので橋詰右岸側の上流から下流方向の撮影と思われる

廃川地埋立工事の事業者が工事の際に、左岸常夜燈を勝手に右岸に移動したとあり
福田勘太郎氏が中心となって、昭和30年9月10日に現在地（農林水産会館南西側）に再建され、
その後しばらくは毎年9月10日に常夜燈に初鮭を備え「舟橋祭」が賑やかに執り行われたという
左岸常夜燈が本来あった場所は拡幅工事前なので、現在地の斜め向かい、井本産婦人科北東道路
際であったという

常夜燈内には御神体として船橋鉄鎖中央にあった錠前が埋めてあるとのこと

（「橋北夜話」より）

神通川と松川今昔歩き（松川の上流区域 安住橋付近の変遷）



富山県公文書館所蔵



富山県公文書館所蔵



富山県公文書館所蔵

上段左：昭和8年 松川原形 安住橋架橋地点
手前は埋立途中の廃川地 奥が松川右岸
右奥には路面電車の鉄橋
現在の富山市消防団総曲輪分団のあたりに架橋
分団横土手に頑丈な石積があるが鉄橋橋台の名残か

上段中：昭和8年 架橋中の安住橋（型枠）
下流から上流を望む
施工・佐藤工業土木部

上段右：昭和8年 姿をみせた安住橋
下流から上流を望む
右の堤にある排水管は現在も使われている



富山県公文書館所蔵

下段左：昭和9年 完成した安住橋とササブネ
下流から上流を望む
照明付きの重厚な親柱がある



自動車・電車 1971～サイトより 研究用

下段中：昭和54年 安住橋と橋下にササブネ
上段左とほぼ同じ構図
既に歩道が追加されている
下流から上流を望む



下段右：上段右から写す：現在
歩道を追加している為、完成当時の姿は見えない
左が丸の内1丁目（旧市立図書館跡）
下流から上流を望む

神通川と松川今昔歩き（現在の桜橋上流付近から上流〈西側〉を見た明治後期～昭和初期の変遷 その1）



上段左：明治後期
桜橋上流 木町の浜上流から千歳ヶ浜を望む
（桜木町～城址方向） 遠くに神通橋
奥に岩瀬通いの大船やササブネ、手前に富山中学の短艇

上段中：昭和6年 松川原形（埋立途中の廃川地）
桜橋上流 桜木町～城址方向を望む
左手前からの流れ込みが第一火防線
○が現在の松川茶屋付近

上段右：昭和9年 改修後の松川
桜橋上流 桜木町～城址方向を望む
遠くに旧塩倉橋と千歳ヶ浜地藏堂
船着場となっている手前の石積み切れ目が第一火防線



上段左、上段右とほぼ同じ位置から写す：現在
左に桜木町 右に新桜町 右奥に富山市役所



左昭和9年
（上段右画像より拡大）
船が係留されている場所には
雁木、係船柱があり船着場として
整備されている



千歳ヶ浜地藏堂の今昔比較
上：○が地藏堂
昭和9年
（上段右画像より拡大）
下段：現在の地藏堂
松川茶屋の西側に建つ

神通川と松川今昔歩き（現在の桜橋上流辺りから西側を見た明治後期から昭和初期の変遷 その2）



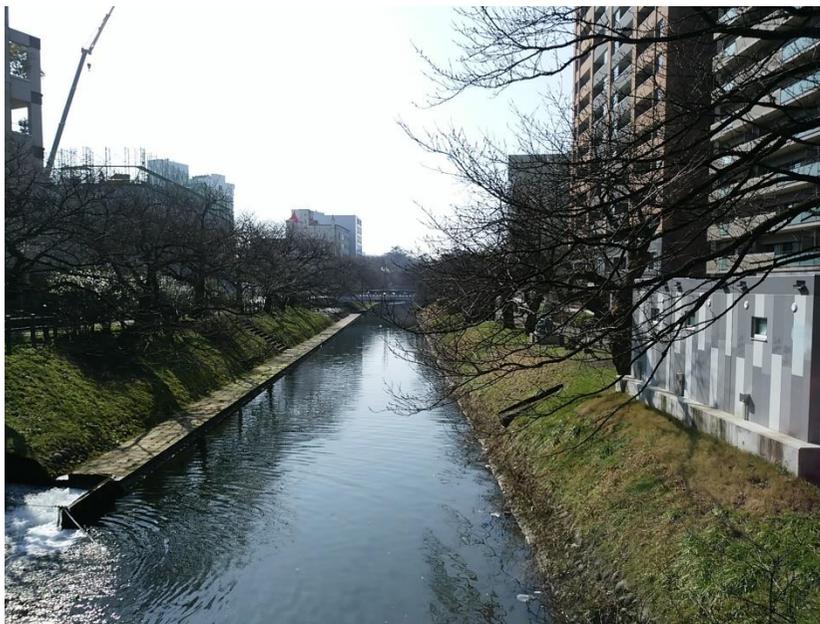
富山県公文書館所蔵

上段：昭和8年 松川原形（埋立途中の廃川地）
桜橋上流 左に桜木町 富山ホテルを望む 右に廃川地（埋立中）
ササブネが数艘みられる 左からの流れ込みが第一火防線



富山県公文書館所蔵

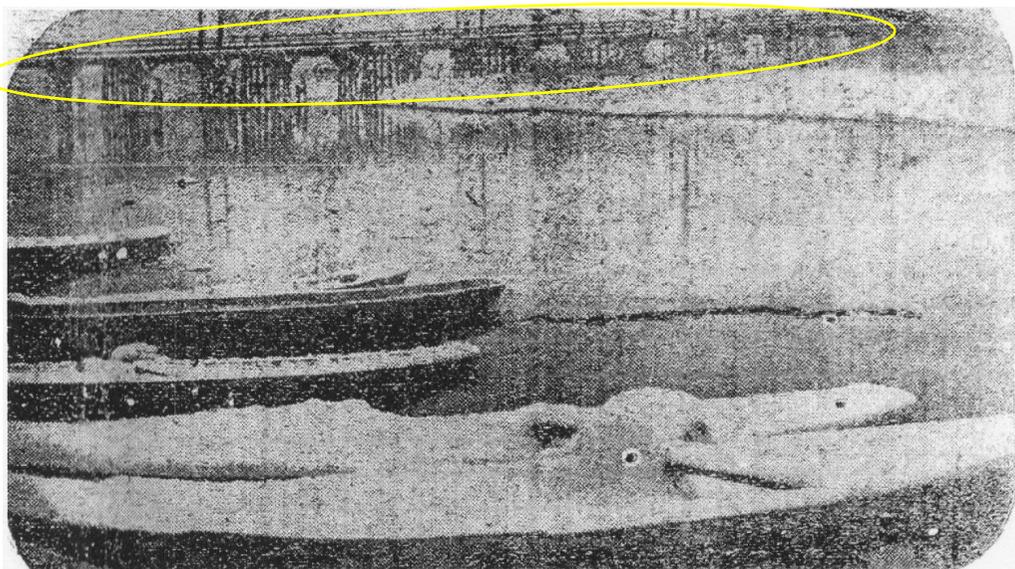
上段：昭和8年 改修後の松川
桜橋上流 左に桜木町 富山ホテルを望む 右に廃川地（埋立中）
雁木、係船柱があり船着場として整備されている



○が現在の松川茶屋付近

上段とほぼ同じ位置から写す：現在
左に桜木町（旧奥田屋跡） 右に新桜町

神通川と松川今昔歩き（現在の桜橋下流辺りから西側を見た大正初期から昭和初期の変遷）



櫻橋遠望の雪景（昨日の所見）

櫻橋遠望の雪景（大正10年1月北陸タイムス）

神通川むかし歩き より

上段左：大正10年
木町ノ浜より上流の旧桜橋を望む
多くのササブネが係留されている



富山県公文書館所蔵

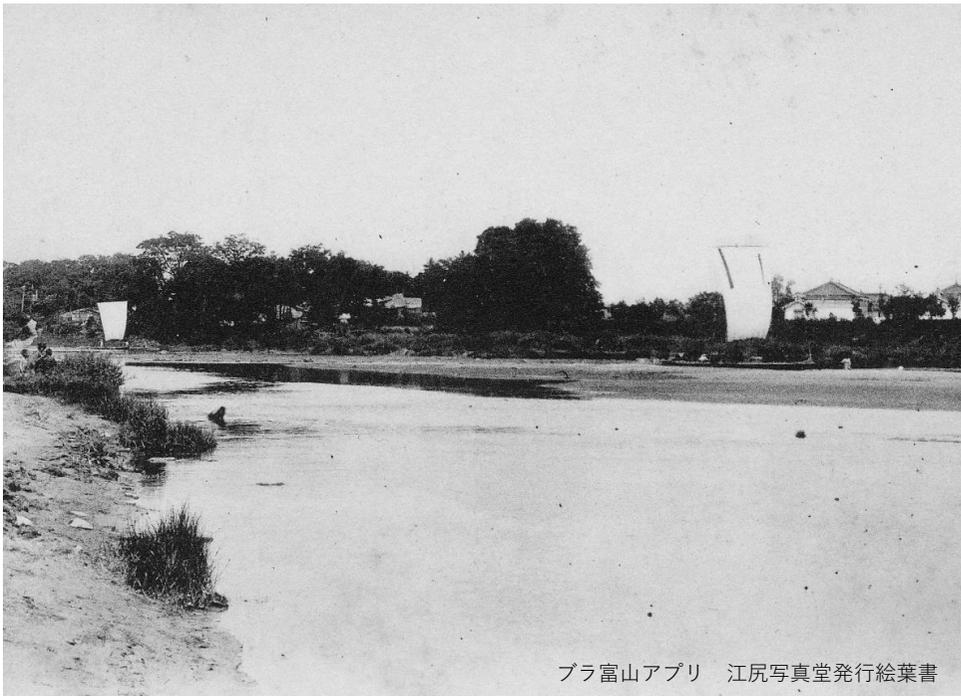
上段右：昭和9年
架橋中の現桜橋 奥に旧桜橋と橋を渡る自動車（乗合バスか）
施工・佐藤工業鉄鋼部



上段左とほぼ同じ位置から写す：現在
左に本町
右に桜橋通り
富山電気ビルディング

神通川廃川地処分の埋立工事、架橋工事などは佐藤工業(株)〔旧佐藤組〕が請け負っている安住橋は土木部が施工し、桜橋は鉄鋼部が施工した
富岩運河の中島閘門（門扉は鉄鋼部）も施工している
（佐藤組85年史より）

神通川と松川今昔歩き（現在の桜橋下流辺りから東側、いたち川合流点の変遷 その1）



ブラ富山アプリ 江尻写真堂発行絵葉書

上段：大正初期の木町ノ浜

岩瀬通いの大船が2隻
（四十石～五十石積）
川のみ航行時は五十石を積載し、
河口（海）まで行く時は四十石積とした

右奥に旧日本赤十字富山病院
中央奥に千歳神社（八幡社）を望む
右よりいたち川が流れ込む



鼬川縁東田地方定絵図（拡大） 富山県立図書館所蔵



越中名勝案内より

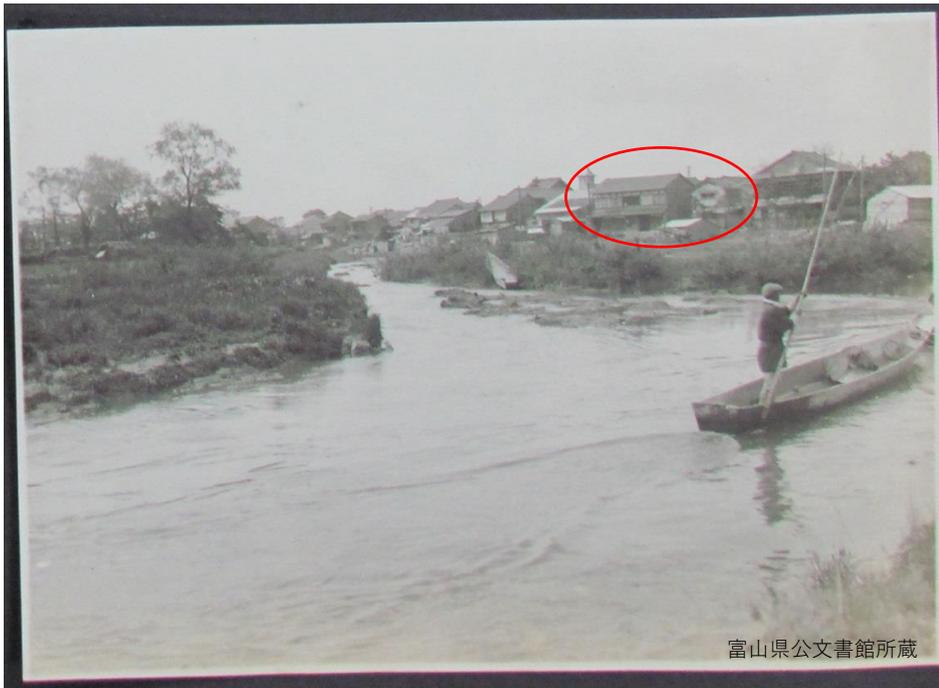
中段：明治33年頃の木町ノ浜

岩瀬通いの大船が4隻 手前にはササブネが数隻
神通川といたち川の合流点より下流を望む
右はいたち川の流れ込みと思われる
大きな石張りの河川敷となっている



下段：現在
右より鼬川流れ込み
左に桜橋通り
富山電気ビルディングの裏手

神通川と松川今昔歩き（現在の桜橋下流辺りから東側、いたち川合流点の変遷 その2）



富山県公文書館所蔵

上段：昭和8年 松川原形 颯川合流点
右より松川（木町ノ浜）



富山県公文書館所蔵

上段：昭和9年 改修後の颯川合流点
右より松川（木町ノ浜）
左よりいたち川と今木橋（旧日本赤十字富山病院へ渡る橋）
雁木、係船柱があり船着場として整備されている



上段とほぼ同じ位置から写す：現在
合流点奥に木町の常夜燈
右より松川 右には桜橋通り、富山電気ビルディング
左よりいたち川と今木橋 左には東田地方

「松川」の呼び名の移り変わり

江戸期…**神通川**〔場所により舟橋川、千歳川等とも呼ばれた〕
いたち川合流点より上流の右岸を「木町ノ浜」と呼んだ

明治期…**神通川**
千歳御殿跡より上流（現在の華明橋～塩倉橋付近）の右岸を「千歳ヶ浜」と呼んだ（胡桃の木があり、船頭衆はクルミジタとも呼んだ）
岩瀬通いの大船（五反船とも・四十石船～五十石船）が主に下荷を積み出し、上荷を降ろした

明治中期～大正10年頃…**神通川**
通称、浜ノ川（浜は湊を意味する）、千歳川と呼んだ
千歳ヶ浜は後に「一ノ組の浜」とも呼んだ
上流域（現在の布瀬付近）は「カッチャの川（搗屋川）」と呼んだと記述あり
カッチャ＝水車小屋（布瀬周辺安野屋村に米や薬種を搗く水車小屋があったと記述）（松川誕生 大塚武雄著より）

大正10年～昭和5年頃…**廃川**（または「廃川地の川」）

昭和5年頃以降…**松川**
「昭和五年土木工事関係アルバム」（富山県公文書館所蔵）において、いたち川合流点から下流域についても「松川」「松川原形」と記載している

昭和6年6月の北陸タイムスにも「松川」と記載あり
都市計画事業の工事にあたって、旧神通川流路全域の水路を便宜上「松川」と呼んでいたようだ
都市計画事業の工事竣工検査は内務省本庁河川局検査技官中村技師により合格し、官報には昭和9年に「松川」と告示（松川誕生 大塚武雄著より）
工事完了後にいたち川合流点までを「松川」とし、その下流域を「いたち川」と呼んだのではないか

都市計画事業の工事による埋立や改修工事に着手する以前（大正3年大洪水以降）より、上流域の現、安野屋、芝園、舟橋南町などは神通川の土石により埋立工事を行い桃島としていたようで、そのころからすでに上流域では「松川」と呼ばれていた可能性もある
現在は上流の冷川、四ツ谷（屋が正しい）川合流点を起点として、いたち川合流点までを「松川」と呼んでいる

「松川」の由来

- ・廃川時点で両岸に松の木が多かったから説（右岸に松の木が写っている写真が無いので信憑性は低いか）
左岸の神通橋対岸船頭町には松並木が写る古写真あり（船橋古写真、神通橋古写真）
右岸に松の木が写る写真は現時点ではない（榎や樺、樺などが写っている古写真は存在する）
- ・「昔、千歳御殿の能舞台の松の絵が美しかったから」等の説もあるが、関係はなさそう
- ・**現在最も信憑性が高そうな説**「富山史壇 133号 松川の由来」北野潔氏による論考
冷川（四ツ屋川を合流（四ツ谷は誤り））が神通川に注いでいた（布瀬～磯部の護国神社裏）ころ、元は「總川（ソウカワ）」と呼んだその河口部は末端、末流を意味して「末（まつ）の川」→「末川」転じて（縁起よく）「松川」と呼ばれるようになった（「マツ」は「小さい」という意味がある）
神通川付け替え工事後、廃川地水路の排水のために、冷川を旧神通川流路に引き込んで延長した際に「松川尻排水路」と呼ばれ、本来は布瀬～磯部までであった松川が延長されて、下流部のいたち川合流点まで「松川」と呼ぶようになった（大正時代後期、恐らくは大正10年以降であろうかと）